

◆当面する重点作業について

1. 晩腐病、黒とう病、カイガラムシ類・クビアカスカシバ対策をもう一度確認する。
越冬源の巻きひげや病斑の除去。また、丁寧に主幹・主枝の粗皮剥ぎを実施する。
2. 側枝、種枝の誘引、結束作業の見直し点検を実施する。
3. 初期生育を助けるため、降雨がない場合は、かん水を実施する。
4. 薬剤散布を適期に実施する。

◆種枝の誘引・園内の清掃について

長・中梢仕立てでは芽が膨らんでから誘引を行うと芽が欠けやすいため、園内を見回り点検を行う。

◆カスミカメムシ防除対策について

展葉していく葉に、細かい穴のあく（破れ障子型）被害を受ける。発生源であるヨモギ等の草刈をする。また、近隣の耕作放棄地でも発生するため、地域ぐるみで行う。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期：発芽直前 4月14日(火)～19日(日)頃

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：2000ℓ以上

農薬名	使用倍率	調合量	収穫前	病害虫
展着剤	10,000倍	10mℓ	—	—
㊥ デランフロアブル	200倍	500mℓ	休眠期	黒とう病

3. 散布上の留意事項
 - 1) 上記散布時期にとらわれず、各園の生育状況を確認し、発芽直前に散布する。
 - 2) 第1回薬剤散布との間隔を5日以上空ける。
 - 3) 芽を中心に主枝、主幹にもたっぷり丁寧に散布する。
 - 4) ブドウトラカミキリの発生がある場合は、ガットキラー乳剤100倍（水1000ℓ当り10ℓ）を加用散布してもよい。ただし、ミツバチ・マメコバチ等訪花昆虫に影響があるので注意する。ミツバチを導入する地区では、ミツバチの導入（開花）前までに散布を終わらせる。